

【如来の主な種類】

しゃか 釈迦如来

悟りを得て仏教の開祖となった

釈迦族の王子として生まれながらその地位を捨て、修行の末に悟りを開きブッダとなった歴史上の人物。釈迦族の聖人という意味で釈迦牟尼・釈尊とも呼ばれます。



あみだ 阿弥陀如来

西方極楽浄土の教主

自らの名を唱える(念仏する)者を極楽浄土へ迎え入れてくれる仏様。無限の寿命をもち、隠れない光明を発することから無量寿仏無量光仏無礙光(むげこう)仏ともいいます。



やくし 薬師如来

体と心の病を癒やす仏

正しくは薬師琉璃光如来。東方の浄瑠璃世界に住み、人々の苦しみを除く仏様。日光・月光菩薩を脇侍、十二神将を眷属(けんぞく)としています。薬壺が特徴ですが持たない像もあります。



だいにち 大日如来

宇宙の真理にして宇宙そのもの

密教の教主で真理そのもの。仏教で説かれる多くの如来・菩薩・明王・天は、大日如来が人々を救うために現実世界に現した智慧や慈悲の働き(分身)とされます。



お寺巡りをさらに愉しむ！ 仏像の見方 基本の「き」 如来編

如来とは修行を完成させた者の意味で、ブッダ(仏陀)の同義語。本来「仏」と呼べるのは如来だけ。完全な智を得ているゆえに超人的な能力もあり、それらを使って人々を真理へと導き救済してくれます。

悟りを開いて解脱に至り
完全な智慧によって人々を救う

仏とは仏陀(ブッダ)の略で、悟りを開いて完全な智を得た者のことをいいます。如来もそうした仏の称号のひとつで、真理に至った者、真理より来た者、修行完成者といった意味です。初期の仏教では、この境地に至ったのは仏教の開祖のお釈迦様だけだと考えられていましたが、真理が時代や地域に関わりなく不変のものであるならば、ほかにも悟った者がいるはずと考えられるようになりました。

特に大乘仏教が興ると、超人的な能力によって人々を救済する仏様が多くの説かれました。なかでも人気を集めたのが阿弥陀如来です。難しい経典が読めなくても極楽浄土に往生できるからで、貴族から庶民まで熱心に信仰しました。これを浄土信仰といいます。上にあげた四如来のほかにも信仰を集めた如来があります。そのひとつが東大寺の大仏として知られる盧舎那仏で、宇宙の中心で光り輝く仏様です。



「コスモス寺」の呼び名にふさわしく、秋ともなれば境内一面にコスモスが風にそよぐ花浄土になる。見頃は9月～10月中旬。



5月下旬～7月上旬は初夏咲きのコスモスとアジサイも開花。また、冬はスイセン、春は山吹と、季節の花々を豊かに訪れたい。



代に復興。また、明治時代の廃仏毀釈など、時代の変遷とともに栄枯盛衰を経ながらも、真言律宗の法灯を掲げ、今に至っています。お寺には鎌倉時代の創藍の様子を伝える絵が残し、それを見ると今からは想像もつかないような大伽藍だったことが分かります。そんな長い歴史を今に伝えるのが、境内各所に今も残る数々の遺構たち。なかでも度重なる戦火を経て奇跡的に焼けずに残った国宝の楼門は重厚感があり、屋根の反りの見事さに目を奪われます。

「観音上人が祀られた丈六の文殊菩薩様は室町時代文明年間、戦国時代永祿年間に兵火を被ったことで失ったため、今、本堂には経堂の秘仏だった文殊菩薩尊像が祀られています。長い間公開されていなかった仏像だけに、色彩がきれいに残っているのが特徴です。それとあわせて、精悍な文殊様のお顔と迫力のある獅子像のお姿をぜひ見ていただきたいです。」
同寺は関西花の寺二十五ヶ所第17番のお寺でもあるため、四季折々の花が楽しめる花の名所としても知られています。とりわけ遠方からも大勢の参拝客を集めるのが、秋のコスモスのシーズン。35種類15万本のコスモスが境内一面を埋め尽くすように咲き誇る様子は圧巻の一言。本堂や十三重石宝塔、石仏の周辺をピンクや赤、白、黄色と色とりどりのコスモスがそよ風に揺れながら咲き誇る様子は、まさに花の浄土ともいえる美しさです。
また、5月下旬～7月上旬にかけて、初夏咲きのコスモス約3万本も見られ、同時期に開花する2000株ものアジサイとの共演もここならでは。そして、冬のスイセン、春の山吹と、季節ごとに彩り溢れる風景が目を惹かせてくれます。
歴史ある花と仏の浄土は、いつ訪れてもゆったりと静かな佇まいで参拝客を迎え入れてくれます。